

第 17 回

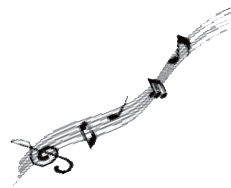
昔を！今を！今歌う会

国民歌謡のその後…

～昭和30年以降の黄金期を唱う～

おはなし・歌唱指導 酒井沃子 安田直弘

ピアノ 半澤尚実



2013年 9月 12日(木) 開演 14:00

アートフォーラムあざみ野 1階レクチャールーム

■ 主催 今歌う会実行委員会

プログラム

第一部 国民歌謡集

- ・高原の宿(昭和30年) 作詞：高橋掬太郎 作曲：林伊佐緒
- ・別れの一本杉(昭和30年) 作詞：高野公男 作曲：船村徹
- ・有楽町で逢いましょう(昭和32年) 作詞：佐伯孝夫 作曲：吉田正
- ・南国土佐を後にして(昭和34年) 作詞・作曲：武政英策
- ・上を向いて歩こう(昭和35年) 作詞：永六輔 作曲：中村八大
- ・いつでも夢を(昭和37年) 作詞：佐伯孝夫 作曲：吉田正
- ・見上げてごらん夜の星を(昭和38年) 作詞：永六輔 作曲：いずみたく
- ・星影のワルツ(昭和38年) 作詞：白鳥園枝 作曲：遠藤実
- ・知床旅情(昭和45年) 作詞・作曲：森繁久彌
- ・北国の春(昭和52年) 作詞：いではく 作曲：遠藤実
- ・青葉城恋歌(昭和53年) 作詞：星間船一 作曲：さとう宗幸

第二部 日本に住み着いた海外生まれの曲

- ・山のロザリア 日本語詞：丘灯至夫 曲：ロシア民謡
- ・旅愁 日本語詞：犬童球溪 作曲：J.P. オードウェイ
- ・冬の星座 日本語詞：堀内敬三 作曲：W.S. ヘイズ
- ・春の日の花と輝く 日本語詞：堀内敬三 曲：アイルランド民謡
- ・灯台守 日本語詞：勝承夫 曲：イギリス民謡
- ・ちょうちょう 日本語詞：野村秋足 曲：ドイツ民謡
- ・仰げば尊し 日本語詞：不明 作曲：H.N.D
- ・アラビアの唄 日本語詞：堀内敬三 作曲：F. フィッシャー
- ・雪山賛歌 日本語詞：西堀栄三郎 曲：アメリカ民謡
- ・七里ヶ浜の哀歌(真白き富士の根) 日本語詞：三角錫子 作曲：J. インガルス

第三部 リクエスト & お楽しみコーナー

☆ 皆様のリクエストを中心に構成します ☆

♪ プログラムの進行上、曲順、曲目等が変更になることがあります。
あらかじめご了承ください。

ご案内



ドイツのハンス坊やが日本の蝶々になったお話

我々の世代が小学校に入学して一番最初に覚えた曲は、「春の小川」、「さくらさくら」、そして「ちょうちょう」でしょうか。

あまり知られていませんが、この原曲は「幼いハンス」という古い「ドイツ民謡」です。

(一)

一人で旅立つハンス坊や世界の旅に出発だ
杖と帽子がよく似合う大喜びのハンス坊や
でも別れを悲しむママは泣き出した
'良い旅をして戻れと'ママの瞳が語ってる

(二)

7年間ハンス坊やは異国にいた
ある日彼は考えた大急ぎで家に帰ろう
でも彼は立派な大人、立派な若者になっていた
日に焼けた手と顔、ママはハンスと分かるかな

(三)

故郷の人々も誰も彼だと分らない
兄だと分からず妹も言う “この人誰なの?”
するとママが来て目を合わせた瞬間に叫ぶ
“ハンス 私の息子! 良く帰ってきたね!”

(映画「戦争のはらわた」での日本語訳)

この歌詞にはドイツ的教育方針が垣間見られます。つまり、子供たちに別れ、出発、悲しみ、そしてその悲しみを回復するという経験を教えるといったところでしょうか。

この「幼いハンス」君が日本の「ちょうちょう」に生まれ変わったのには定説があります。

1975年ころ、米国に留学していた伊沢修二が当時、全米でよく知られていた、「Lightly Row」という曲を知り、日本に紹介したとされています。

(「Lightly Row」のメロディは「幼いハンス」から取ったものです)。

つまり、「ハンス坊や」が急に「ちょうちょう」に一挙に変身したのではなかったのです。

「ちょうちょう」もそうですが、「Lightly Row」の歌詞も「幼いハンス」とは全く関係ありません。

インターネットを検索すると、この曲の原曲は「スペイン民謡」と紹介しているサイトが数多くありますが、これは間違い。

この曲を日本に紹介した伊沢修二がなぜか間違えて伝え、それが長年にわたり、定説になっていたようです。

さて、「ちょうちょう」の歌詞ですが、これも結構ややこしい話があります。

一、(野村秋足作詞)

蝶々 蝶々 菜の葉に止れ
菜の葉に飽たら 桜に遊べ
桜の花の 栄ゆる御代に
止れや遊べ 遊べや止れ

二、(稲垣千穎作詞)

おきよ おきよ ねぐらの雀
朝日の光の さきこぬさきに
ねぐらをいでて 梢にとまり
あそべよ雀 うたへよ雀

(「Wikipedia」より)

楽譜によっても違いますが、ほぼこんな形で歌詞が紹介されていると思います。

元々、この曲の詩は伊沢の依頼で野村が日本の各地にある童謡からヒントを得て作ったと言われていますが、明治14年に小学唱歌集に掲載されることになり、国が新たに稲垣に作詞を依頼したという。伊沢は歌詞書き換えに反対して、(折衷案?)一番に野村のちょうちょう、二番に稲垣のスズメが登場することになったそうです。

その後、昭和22年の教科書では一番の文章の変更と二番がカットされ、一番の蝶々だけが残ったということです。幼いハンス君が知ったらビックリですね。

さて、皆様は蝶々が桜の花に止まっているシーンを見たことがありますか?

多分、ないのではないのでしょうか。これも一つの謎ですね。

最後にクイズ。「蝶の数はどう表すのでしょうか」(解答は裏表紙にあります)

プロフィール

酒井 沃子 Yoko Sakai

東京藝術大学音楽部声楽科卒業。数々のコンサートの企画運営に情熱を注ぎ、既成概念を破る印象的なステージ創りを次々と実現させている。コーラス4団体の主宰をし、個性を持った何処にも無いグループとして育てている。平成15年設立された、NPO法人「65歳からのアートライフ推進会議」では、理事長として、青葉区から発信する音楽イベントを実現させ、多方面から注目を浴びている。「昔を今を 今歌う会」では、主宰・指導者として、地域の音楽に貢献している。

安田 直弘 Naohiro Yasuda

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業後、シャンソン、ポップス、ソウルバンド等、長年演奏活動を続ける。NHK レッツゴーヤングの歌唱指導等で高い評価を得る。現在、歌手・俳優へのヴォイストレーニングでも活躍中。東海大学、文化学院大学非常勤講師。

半澤 尚美 Naomi Hanzawa ピアノ

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。ピアノを井口基成、森安芳樹、室内楽を岩崎 淑の各氏に師事。虎ノ門ホールにてデビューコンサート、県立音楽堂にて横浜弦楽四重奏団と競演。イタリア、シェナ夏期講習に参加。現在、昭和音楽大学および同大学付属音楽教室ピアノ講師として後進の指導にあたる。

スタッフ

- ・山本 桂子（事務局長）・丹羽 綾子（ステージコーディネータ）・坂野 義雄（事務・会場）
- ・藤本 裕（構成・プログラムデザイン） ・その他ボランティアの皆さん

☆次回ご案内☆

第18回「昔を！今を！今歌う会」

2013年12月15日(日) 開演14:00 (開場13:30)

会場：工藤建設(株)フローレンスガーデン

- ・お問い合わせ先： オフィスバルーン Tel&Fax. 045-901-9914
E-Mail office_balloon@a00.itscom.net

・解答：蝶は一頭、二頭と数えます)